

同志社大学「次世代研究者」プロフィール

2021年10月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	オオツキ 大槻	コウスケ 晃右	生年	1988年	
氏名(英字)	OTSUKI	Kosuke	メールアドレス	kotsuki(a)mail.doshisha.ac.jp	
学歴	2008年4月 同志社大学文学部哲学科 入学 2012年3月 同志社大学文学部哲学科 卒業 2012年4月 同志社大学大学院文学研究科哲学専攻 博士課程(前期課程) 入学 2015年3月 同志社大学大学院文学研究科哲学専攻 博士課程(前期課程) 修了 2015年4月 同志社大学大学院文学研究科哲学専攻 博士課程(後期課程) 入学 2021年3月 同志社大学大学院文学研究科哲学専攻 博士課程(後期課程) 修了				
職歴	2014年4月-2021年3月 同志社大学文学部 ティーチング・アシスタント 2019年4月-2021年3月 中部学院大学通信教育部非常勤講師 2019年4月-現在 同志社高等学校社会科嘱託講師 2021年4月-現在 同志社大学研究開発推進機構 特別任用助手(有期研究員)				
指導教員	新 茂之 教授	取得学位	博士(哲学)	専修外国語・読解可能な外国語	英語
研究活動					
研究分野	哲学・倫理学				
科研費分類による研究分野	哲学および倫理学関連				
研究テーマ	デイヴィッド・ヒュームの思想を中心とした近現代英米哲学				
研究概要	18世紀スコットランドの哲学者デイヴィッド・ヒューム(David Hume, 1711-76)の哲学を軸にして、近現代の英米哲学を研究しています。ヒュームの思索は、因果論をはじめとする認識論から、倫理学や政治哲学、歴史記述に至るまできわめて幅広い分野に及んでいますが、それらの基底には、『人間本性論』(<i>A Treatise of Human Nature</i> , 1739-40)で展開される、自然主義的かつ懐疑主義的な人間理解があります。とりわけ、経験と習慣に基づいた想像力と情念の働きを、人間の認識的・実践的な営為の基盤と位置づけるところにヒュームの思想の独自性があり、この観点から、多面的なヒューム哲学の包括的理解を試みています。				
研究業績	■論文(査読有) 大槻晃右 2018「ヒューム『人間本性論』における知覚の「生氣」、『イギリス哲学研究』第41号、17-31頁。 大槻晃右 2016「ヒューム『人間本性論』における「精神の被決定性」の認知——「生氣」に関する因果的解釈の確立に向けて——」、『同志社哲学年報』第39号、75-91頁。 ■論文(査読無) 大槻晃右 2020「「自然の通常の成り行き」と道徳性の基準との関係——ヒューム『人間本性論』における道徳的評価の心理学」、『イギリス理想主義研究年報』第16号、37-44頁。 大槻晃右 2020「ヒュームの価値理論における快苦と善悪の連関」、『イギリス理想主義研究年報』特集号、22-28頁。 ■口頭発表(国内) 大槻晃右、「非両立的信念の対置の繰り返しによる判断の全面的保留——ヒュームの「理性にかんする懐疑論」再考——」、ヒューム研究会第31回例会、Zoomによるオンライン開催、2021年8月。 ■口頭発表(国外) Otsuki, Kosuke. "Reason as an Instinct: Hume on the Animality of Human Nature," Cologne Summer School of Interdisciplinary Anthropology IV, University of Cologne, Germany, September 2019. その他の業績については、Researchmap(https://researchmap.jp/kosuke_otsuki)をご参照ください。				
所属学会	Societas Philosophiae Doshisha(同志社哲学会)、日本イギリス哲学会、関西哲学会、関西倫理学会、日本イギリス理想主義学会、ヒューム研究会、Hume Society				
キャリア関連					
志望進路	教員(大学・高専等)、研究員(研究機関、企業)				
進路					
自己PR	ヒュームの哲学は、人間を自然の一部として研究する自然主義的なものです。そのため、認知心理学などの分野と親和的であり、学際的な人間研究の一翼を担うことができます。また、高校で倫理を教えており、哲学を通じた批判的思考力の養成に関心を持っています。				
取得資格等	教員免許・公民(高校)				

※メールアドレスの(a)は@を表しています